

JPTA news

vol.194 2011年 1月号

CONTENTS

- ◆ 理事長新年挨拶 1
- ◆ 指導技術論【指導論】 2~3
- 【技術論】 4~13
- ◆ 今のスポーツビジネスについて 14~15
- ◆ 時の人【萩本 光威氏】 16~18
- ◆ 2010コンベンション開催報告 19
- ◆ マスターズクラシック開催報告 20
- ◆ 能登国際開催報告 21
- ◆ プロプレーヤーインタビュー 22
- ◆ 会員人物紹介【四国地区・北海道地区】 23
- ◆ 地区長会議報告 / 地区たより 24
- ◆ 資格認定委員会【UPテスト合格者 / 新入会員挨拶】 25
- ◆ 資質向上委員会セミナー開催要項 / 行事日程表(2月~3月) 26
- ◆ 事務局たより / 会費請求書発送について / 退会届について / 求人募集広告掲載受付中 / メール配信サービス 27
- ◆ 公認推薦賛助企業 / 編集後記 28



平成22年度
社団法人日本プロテニス協会コンベンション
2010 JPTAコンベンション 2010.10.4~5

新年のご挨拶

理事長 渡辺 功



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は皆様のご理解、ご協力により各事業も順調に運営できましたことを深く感謝申し上げます。

さて、続く世界経済悪化を受け、景気問題、雇用問題、年金問題、教育の問題など、難題が山積み、そんな情勢の中、私達の業界にも少なからず影響が及びました。国内経済の回復の見込みには期待できなかった2010年度でしたが、スポーツ界は明るいニュースをたくさん提供しています。バンクーバーオリンピックでのメダル獲得、サッカーワールドカップのベスト16など日本人選手の活躍には目を見張るものがありました。また我々テニス界では、ジュニアデ杯で日本が初優勝したことに大きく沸きました!!本当に感動しました!どれだけ素晴らしいことを成し遂げたのか、監督をはじめ代表選手には大きな拍手を贈りたいものです。

テニス界の今、課題と方向性

「ジュニアデ杯の日本優勝」というこの快挙に対し、国内でどれだけのメディアが取り上げたでしょうか。せいぜい結果の発表程度だけではないかと思えます。もっと詳しくそして大きく報道して欲しいと思うのは私だけではないはずです。しかし、これが今の日本のテニス界が置かれている現状であり、遺憾ながらもこれを受け止め、真正面から向き合わなくてはなりません。日本のテニス競技人口はトップクラスで、「盛ん」ではあるのに、「人気」という言葉には少し遠い気がします。

日本では錦織圭選手をはじめ、クルム伊達公子選手が注目されていますが、ゴルフや野球、サッカーのスター選手の人気と報道の力も相俟って、その間に隠れてしまっています。

巷で人気と言われるスポーツに近づく為に、テニス界はどう進んで行けばいいのか、日本にも素晴らしい選手が存在するのに、それをどう世間に知ってもらうか、どう売り込むか。それはプロテニスプレーヤーの舞台である大会観戦をより面白くしていくことにも繋がっています。よく、「テニス界はスーパースターが存在しないので人気が出ない」という言葉も耳にしますが、スーパースターもいずれは第一線からは退く日が来ます。ではそのスーパースターがいなくなったら?またテニス人気の低迷と戦うのでしょうか。勿論スーパースターの存在は必要だと思っていますが、それに頼ることなく

テニスという競技や、先に述べたテニス観戦内容の充実を大きく図り、「テニスは世の中で注目もされているし人気もある!」そんな位置づけに定着させていきたいと思っています。それには大きな努力と改革が必要です。

日本テニス連合 4団体の強い協力体制

日本のテニス界の様々な改善や改革をおこなう為には日本のテニス団体の更なる関係強化が不可欠となります。

社団法人日本プロテニス協会、財団法人日本テニス協会、社団法人日本事業協会、日本女子テニス連盟の4団体では協力体制を築いていく為に、「日本テニス連合」を結成し、日本のテニス界の強化、統一すべき課題や問題点を取り上げて定期的に会合を行っています。

テニスの歴史を振り返り、良い時間も低迷の時間も真摯に向き合い、基本に立ち返り、地道にひとつずつ、目の前のことから取り組んでいきたいと思っています。

「公益社団法人」移行に向けて

平成22年度総会に於いて会員の皆様からご承認をいただきました、新公益法人移行(公益社団法人)については、公益社団法人と一般社団法人のメリット・デメリット等を比較、検討した結果、当協会は「公益社団法人」を選択しましたことは既にご説明済みです。現行の適正運営は主務官庁の指導監督によりを確保していますが、行政の関与を最小化し法人のガバナンスを強化することにより、理事や監事、職員等の権限、責任や相互の牽制機能等を法制上明確にするなど、自主的、自律的に運営を行っていただけるよう、営利法人並みのガバナンスが求められることになります。

今年は役員改選の年でもありますのでそれを十分に踏まえつつ、更に気を引き締めていかなければならないと感じています。

日本プロテニス協会はこれから新たなステージに入ります。

この新しい年がより佳き年になるように、また会員の皆様にとっても素晴らしい年でありますよう祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

指導技術

指導論

勝てる選手が育つ土壌を作るために今、必要なこと

長期的な視点で考える低年齢指導の大切さ

日本テニス協会ナショナルチームゼネラルマネージャー
ナショナルチーム・デビスカップ代表監督

竹内 映二

2010年の7月、久しぶりに全国小学校選手権大会を見るチャンスがあった。しばらく見ない間に随分小学生も攻撃的になったと感じた。数年前までと比べると、猛暑の中一所懸命プレーする子どもたちのプレーは以前に増して攻撃的で、日本のテニスも進歩しているのを感じた。また、昨年はナショナルチームにとっても素晴らしいできごとがあった。それは、16才以下のジュニアデ杯チームが世界大会で見事優勝したことである。彼らの低年齢時期を指導したコーチ、今現在の彼らを指導しているコーチ、そして各年代の大会を運営しているスタッフのそれぞれの活動が、初めて点から線としてつながったのが見えたような気がした。今後、その線が大きく一般の世界へとつながっていけば最高である。

このように、育成システムとしては完成してはいるが、ひとりの選手育成強化を通じてコーチとしての我々の仕事はどこかで関わっていて、つながっているのである。そして、我々の世界も他の世界と同じように、決して「私のところは…である」という利己的な言葉は成り立たないものである。我々の愛するスポーツであるテニスは、まだまだ子どもと同じであり、この線を太くしっかりしたものにしなくては簡単に潰れてしまう危ういものである。我々コーチは大志を持ち、お互いを理解し合い、一見、点に見えるような仕事をもっともっとしっかりしたものにつなげていく必要があると感じる。



さて、前置きが長くなったが、今回は「日本が勝てる選手を育てるため、その土壌を作るために今必要なこと」というお題を頂いた。簡単に結論が出せないテーマではあるが、低年齢指導に焦点を絞って話を進めていくことにする。

近代テニスにおいては、男子選手を一人前に育て上げるために、およそ5～23才までの19年という長い年月がかかってしまう(RSK全国大会の平均スタート年齢は5～6才である)。世界中旅した私だが、この長い道のりを最初から最後までやり抜いた指導者には、未だめぐり合ったことがない。想像を絶するほどの長い期間である。今回はそんな長期的なお話の最初の部分である低年齢指導について書いてみたい。

低年齢指導の大切さ

コーディネーション能力の開発

私が、コーディネーショントレーニングを初めて耳にしたのは、10代の時点で、40年くらい前にさかのぼる。その頃は、まだ私自身は小学生で、ハンド&アイ・コーディネーションと言われるラケットワークのことが語られるのが中心であった。二度目にコーディネーションをもっと深い意味で知ることになったのは、20年以上前である。そのコーディネーション能力(※1)について少しおさらいをしておきたい。子どもを最初に預かったコーチは、種を蒔き、その芽を育てる時期として「ゴールデンエイジ」(※2)あるいは「即座の習得期」(※3)と呼ばれる時期、運動学的にみて、将来選手になるために大きな影響を与える重要な時期に携わる。その時期は第一に、如何に子どもをテニスに夢中にさせるかが必要である。

(※1)コーディネーション能力は、7つの能力に分けることができる。

1. 定位…自分の置かれた空間、時間に対して適応し状況を素早く判断し行動

する能力。状況判断能力 ボールや対戦相手の位置、自分の位置などの状況を把握して的確に行動する能力。

2. 反応…素早くボールのコースや速さ・戦術を認識し、また反応して、素早く動き出す能力。

3. 識別(分化)…ハンド&アイ・コーディネーション能力だけでなく、足をうまく運んだり、個々の動きを目的に合わせて正確に協調させる能力。

4. 連結…個々の動作を全体の動作へとつなげる能力。運動連鎖。

5. バランス…全身を平衡に保ち、動きの変化の中でも平衡を保ち維持する能力、またアンバランスから回復する能力。静的バランスと動的バランス能力。

6. リズム…変化するボールと時には協調し、また独自に動き動作にリズムを生み出す能力。

7. 変換…状況変化に気づき、素早くその状況に順応させる能力。切り返し、ディフェンスからオフェンスなどの切り替え能力。

(※2)8～9歳から12～13歳ごろを「ゴールデンエイジ」と呼び、一生のうちに二度と現れない技術習得の重要な時期で、後に必要なあらゆる技術を身に付ける取り組みを行う時期である。

(※3)ドイツの運動学者マイネルは、特定スポーツの技能の習得を開始するのに適した時期は、9～12歳ごろであるとし、この時期の子供は、新しい運動を何度か見ただけで、すばやくその運動を大雑把なかたちながらこなし、かつ多様な条件に対してもうまく適応させる能力を発揮すると述べている。マイネルは、この運動の最適学習時期を「即座の習得期」と呼んでいる。

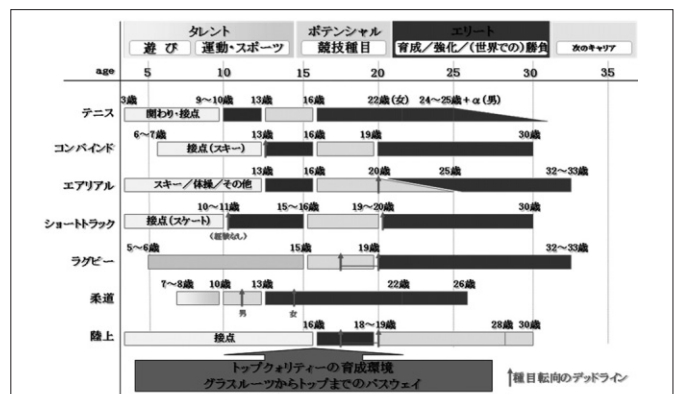
選手は勝手に育たない。

タレントが偶然育ってくるのを待つのもいいだろう。

しかしそれでは永遠に待ち続けることになるかもしれない。

※アンディ・ロクスブルク氏、2003.1.12、第3回フットボールカンファレンスにて

「世界のどのチャンピオンもはじめはただの赤ん坊(体操元口サンゼルスオリンピック監督:安部和雄)」という言葉がある。つまり、すべての人間が最初から一人で立ち、歩くことができないように、国際舞台で活躍する選手といえども、自分自身の可能性を知り、自らの課題を克服するために何をすべきかという命題に対して自主的かつ積極的に取り組む方法を最初から知っていたわけではない。彼らのその高い能力は、後天的に獲得(開花)されたものである、とする見方である。特に、子どものころは、誰かに導かれてスポーツに親しみ、誰かに教えられて向上し、その結果、スポーツと関わっていく楽しさや価値を徐々に見出していくものである。「子どもたちにとって幸せなことは、優秀な指導者と出会うことである」という言葉もあるように、自立するためには、第三者の支援が必要不可欠なのである。この時期のコーチングは極めて重要であり、上記のような目的を達成しようとするならば、スポーツに対する幅広い知識のみならず豊かな人間性に裏打ちされた高い専門性が必要になる。



※JOC開催の競技者育成プログラム普及促進事業における「平成21年度指導者連絡協議会(コンソーシアム)」の資料より

指導編

前項(P2)の図を見て頂きたい。これは、JOCの会議の中で使われた資料の一部だが、スポーツの中でもいかにテニスが低年齢から関わられなければならないかが分かるのでここで紹介した。一方、バンダイこどもアンケートでは、12才までのこどもに挑戦させたいスポーツを調査しているが、ここでは男子5位、女子4位がテニスであった。にもかかわらず、ニーズはあるが実際は子どもにプレーさせる環境は整っていないのが現実である。もちろん、他のスポーツ同様にテニスも、スポーツ環境や社会状況の変化に影響を受けているのが分かる(公営コートの利用、民間テニスコートの減少、少子化、市町村合併によるエリア拡大等)。

子どもは子ども、外国の子どもも同じ子ども

もし、10才以下の世界大会があるとしよう。はたして、常勝するような国が現れるだろうか？ おそらく、日本を含む世界のどの国々の10才もさほど実力差がないはずだ。14才以下の世界大会になると(ワールドジュニア)、少し日本と世界の実力差がつき始める。それは成績に現れているだけでなく、ワールドジュニア・ジュニアデ杯・ジュニアフェド杯代表監督が実際に感じている部分であり、体力、戦術力、テクニックの幅に差があるという。16才以下の世界大会になると(ジュニアデ杯・フェド杯)、日本と世界の差は14才以下より少し大きくなる。昨年、日本はジュニアデ杯で初優勝することができたのだが、監督は、体力、戦術力、決断力、想像力にはまだ差があるとコメントしている。子どもはどここの世界にいても変わらず子どものはずだが、日本のジュニアと海外のジュニアの間には、10才からの数年間の間にさまざまな問題が影響して、テニスの実力差に影を落としている。この段階では小さな日本と海外のジュニアの差は、クライマックスステージ(完成期)を迎えると大きな開きへと変わってしまう。コーディネーション能力の開発に関して前述したように、発育発達のもっとも大事なジュニア期に備わるべき能力が開発されずにいるとしたら、それは我々の時代になんとか解決されるべきであろう。

ここまで読んでお気づきの指導者もおられるかもしれないが、ここでもう一度コーディネーション能力の注釈を見ていただきたい。戦術の幅のなさ、決断力、想像力など、我々のジュニアに欠けている部分とはコーディネーション能力の定位の部分ではないだろうか。もちろん、定位は試合経験など、コーチが実際にレッスンしない部分でも多く開発されるのだから、十分な試合経験を低年齢の間から積ませる必要がある。下記の資料は、世界の現実を示している。

ITFが推薦する年齢別のシングルススリーセットマッチ年間試合数

U 12	U 14	U 16	U 18
40 - 50試合	60試合	70試合	70 - 80試合

※ヨーロッパの14才以下大会でのアンケートでは、11才時にすでに年間単複合わせて平均で65～85試合を経験している。もちろん、すべてスリーセットマッチである。また、ITFは別の報告で、12才以下におけるテニスパフォーマンスを決定づける一番の要因は経験であるとしている。

単に試合を経験させればそれでよいというような、単純な策では当然あるまい。我々は、コーチングの仕方次第を変えなくてはならない。ひょっとしたら、ヒントはゲイブ・ハラミロ氏が昨年来日した折に触れた「球出しを減らしてもっとゲームに即したドリルをやりなさい」と言う言葉の中にあるのではないだろうか。彼のセミナーを受けたわけではないが、金子さんのお話を伺った中でそう感じた。

「ゲームに即したドリル」とは海外で言うところのGBA(ゲーム ベースドアプローチ)であろう。日本語に言い換えると「ゲームを基にしたアプローチ」と言える。ここで勉強なさっているコーチは、「Play & Stay」の本当の意味が分かっていただけなのではないだろうか。「Play & Stay」はこの「ゲームを基にしたアプローチ」をベースに考案されているのである。

テニスは技術を習うのではなく、ゲームのやり方を習うから楽しいのである。「Play & Stay」同様、我々コーチも、生徒のゲームが上達していくのを感じるから楽しいのであって、負けて帰って来る生徒に対して「お前はゲームが下手だ」と罵ることはどんなコーチも望んでいないはずだ。そう罵ることは今やコーチ自身が自分に「私はコーチングが下手だ」と宣言しているようなものなのである。

カナダのジョセフ・ブラベニック氏が「競争:最も望ましいトレーニング形式」の中で以下のように書いている。

今日のテニス競技(トーナメントにおいて)は、試合の場面に即していないストロークのテクニックの反復練習のような単調なものにすり替えられているように思う。反復練習のような試合は後々、競争本能や競争の欲求を抑圧し、さらに望ましくない「知識のひけらかし」を生む。これら(競争本能、競争の欲求)の優れたテニスプレーヤーにとって不可欠な特徴は、怠慢や無関心、そして習慣的に型どおり行うトレーニングによって追いやられている。意志、努力、熱心さなどは消えて、身体でテニスの動作を真似るだけになっている。そのような傾向のトレーニングでは、本当のテニスプレーヤーを育て上げるのは殆ど不可能である。(一部割愛)

カナダは「Play & Stay」を最も早く実行に移した国のひとつであることを書き加えておく。

「ゲームを基にしたアプローチ」で心がける練習のポイントは、以下のような内容である。

- 試合で行われる現実的な状況を再び作り出す
- それに挑戦しながら必要な能力を上達させるためにその状況を繰り返し練習させる
- 高い強度で成し遂げさせる
- 受信能力と予測能力の両方を上達させる
- 積極的な判断を下せるように仕向ける
- クローズからオープンへのやり方を理解する手助けをする
- 対戦相手が難しい状況にいるときを識別させる
- ふたつの方法で状況判断の工程を上達させる
 - ⇒対戦相手を難しい状況下へ押しやり選択肢を探ること
 - ⇒次に何をするかを理解させること

最後に

(社)日本経済連合会「21世紀を生き抜く次世代育成のための提言」2004年の中に以下のような提言があった。

現在、企業は内外の企業との熾烈な競争の中にあり、特に、知恵で競い合う時代になっている。こうした中、産業界は以下の3つの力を備えた人材を求めている。

第1に「志と心」である。「志と心」とは、社会の一員としての規範を備え、物事に使命感をもって取り組むことのできる力である。顧客への対応や関係企業との関係をはじめ、事業活動を推進していく上で、誠実さや信頼を得る人間性、倫理観を備えていることが不可欠である。また、仕事をはじめ様々な形で社会に貢献しようという意欲、目標を成し遂げようとする責任感や志の高さなども求められる。最近の若者の傾向として指摘されている、自分から果敢に挑戦する意志や情熱に欠けていること、物事に対する好奇心や夢がないことなどの問題を解決していかなければならない。(以下省略)

低年齢の時期に展開されるコーチングには、スポーツを継続させるために必要な勝つことの喜びや「できないこと」が「できるようになる」喜びなどを体験させ、併せてフェアプレーの重要性やスポーツマンとしての行動模範の基礎を教えることも求められる。

我々コーチは、決してそれを忘れてはならない。

指導技術

技術論

フォアハンドストロークの指導論

資格認定委員会 副委員長 八島 正幸

あらまし

昨今、ラケットの進化による、また、バイオメカニクスの研究効用により教え方が変わり、打ち方も変貌してきた。パソコンによる教育改革も手伝って、「分かり易く」「楽しく」「勝手に出来させる」指導法も発達してきた。

昔からの理論は、間違いではないが、より進んだ点等を資格認定委員会としてまとめてみました。いろんな指導法はありますが、ひとつの参考例として下記の通り紹介させていただきます。

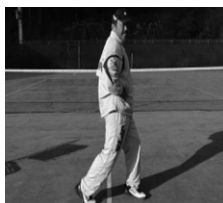
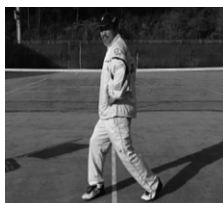
□初心者から上級者まで通じる教え方の手順・考え方

(小学生・全日本ジュニアベスト4選手・一般初心者・レディースプレイヤー・全日本ベテランクラスの方でも実際にここから紐解いています。)

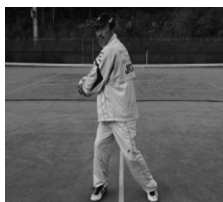
※バックハンドストロークも同じ発想なので、現在は、同時進行で教えられる。

1 身体の使い方

ア) 腰骨の動き方の紹介



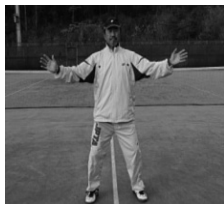
イ) 分かりやすいフォローとしてバスケットボールやメディシンボールを投げて腰のひねりをマスターする



ウ) 前を向いて手を180°伸ばす



エ) 次は160°ぐらいにする



(脇は、ボール1個入るくらい)

技術論

オ) そのまま身体をひねる



戻す



フィニッシュであとに右肩がつくぐらいまで伸ばす。そして左手で右手を添える。

横を向く(右腰が前に来るまで)

カ) 体重移動は、右足から左足へ

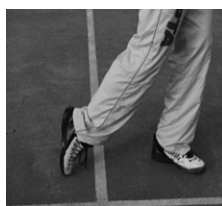
フィニッシュの後は、右足の後ろ脚を上げるくらい伸ばす。



(右足)



(左足)



キ) 同じ事をステップインで行う



次は、ボールを使ってフォアハンドをマスターする。

2 ボールを使って(実際のボール感が身につく。手で行う方が分かりやすい。)

ア) 左手でボールを持って、前述1項身体の使い方の流れでボールを「掴む」

①オープンスタンス

②ステップイン

ボールが流れたら少し動いてとる。



※打ち終わったら1~2秒間静止する。



イ) 同様の考え方で「手で打つ」。

⇒真っすぐ飛んだらOK。

※少し外上に打つ事を強調。

※ネット近くから行くとよりリアル。

技術論

3 グリップの考え方

下の写真は、打点の位置の違いを示している。フラットから厚めのスピンの打ち方を基本にしている。これは、教本と同じ。但し世界的には、グリップの考え方が少しずつ変わってきている。

- ア) コンチネンタル（薄過ぎてラケットの振り抜きの効果がないので不適切）
- イ) イースタン（初心者用）
- ウ) セミウエスタン（ジュニアの強化・中高校生等用・アダルト強化まで）
- エ) ウエスタン（スピード化した現代テニスに不適切）



4 ラケットを使って自分で打つ

- ア) ゴルフテニス（初心者用・ジュニア用（ころがしも））



※ボールを運ぶ感覚・押す腰のひねり・下から上へのスウィングを理解できる。

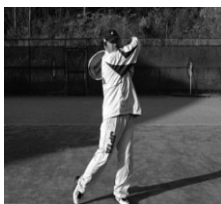
- イ) ラケットでワンバウンドしたボールを打つ（オープンスタンス、ステップイン）



- ウ) ワイパー打ち（強化用）の理解の原点



- エ) スウィングボレー（ノーバウンドで打つ）（強化用）



技術論

5 コーチが投げて生徒が打つ

ア) 手で落として



イ) 前から出して



ラケットを引くタイミングを教える(コーチがバックスウィングしたらラケットを引く)

ラケットを引く

コーチが
バックスウィング

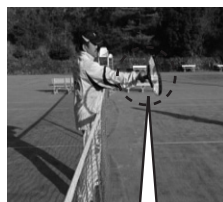


ウ) ラケット出し



エ) ネットにお腹を当てて打点「前」を教える

(横から分かるがかなり前である。)



スウィングを横からやや外上、ワイパー。

かなり前である



6 30年前からある段階式の紹介

ア) 打点の位置で手で取る。



イ) 打点の位置でラケットに当てる。



ウ) ラケットで一度止めてからフォロースルー。



技術論

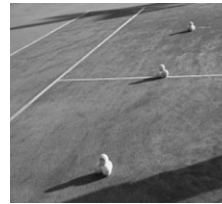
エ) 短いテイクバックから短いフォロースルー

オ) 相手にワンバウンドかノーバウンドで返球。打った後1～2秒静止する。

この教え方は、矯正練習等にも最適で分かり易い。今でもプライベートレッスンに使える。



カ) ネット越し



生徒の位置を段々下げる。また、ターゲットも同様にする。

7 その他

矯正法

ア) ワイパーの理解 (手首だけ、肘と手首、肩・肘と手首)

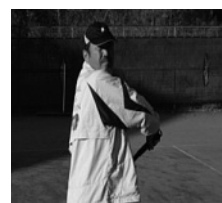
(手首だけで打つ)



(肘と手首で打つ)



(肩・肘と手首で打つ)



イ) アングルショットをマスターする矯正練習



(第一段階)



(第二段階)



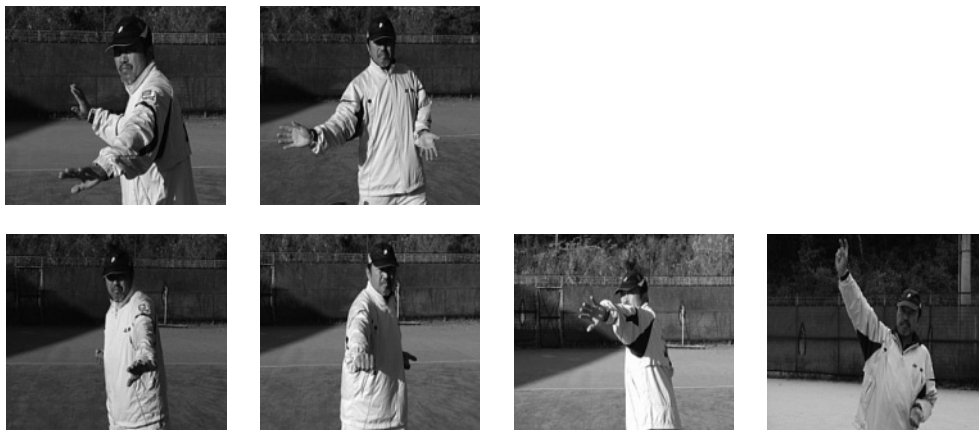
技術論

ウ) ウィンドミルショットにも繋がる

上記、イ) 項の第一段階の打ち方がシャラポフスウィングの原型。



エ) 左手の使い方の考え方

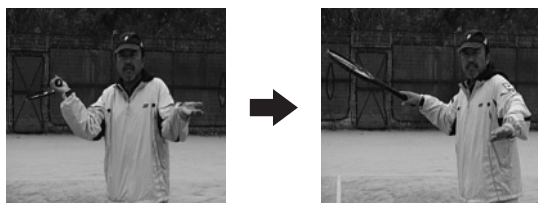


(合気道)

(野球)

合気道や野球のキャッチボールの考え方のように作用・反作用を考える事。

※女子のジュニアは、上向く子が多いのでここからの考え方を利用すれば良い。



(悪い)

(良い)

<フィニッシュ>

- ①左手を添えるやり方。(初心者・体のバランスが悪い人向き)
- ②左手を添えないやり方…力強さが出るので中級以上向き)

※修造の元コーチ「アルバロ」さんは、絶対離せと言う。

オ) スタンス

フォアハンドの上手い方は、スタンスが概ね広いのが特徴であることを考えておく事。

この頃のイスの生活が中心では、股関節が硬い人が多く注意しないとスタンスを広めにとれない傾向がある。



技術論

カ) テイクバックの早さの重要性

予測の重要性は別に述べるが、ネットを越した時点でテイクバックを開始しボールが落ちる前にはテイクバックを完了する習慣を早くから身につける事。



以下の2通りある。

- ①テイクバックを一気に引くのがアガシ、ウィリアムズ姉妹のタイプ：ワンモーション
※ミスが少ないがパワーに欠ける。
- ②2/3 まで引いてからスパンとリズムカルに打つのがサンプラスタイプ：ワン・ツーモーション
※ミスが付きまとうがパワーが付き易い。

＜世界一リターンが上手いと言われたアガシの話＞

ウィンブルドンの練習コートでアガシと練習していた④選手を見て、記者がミスが多く、「あの素人ですか?」と尋ねた。

(答え) 当時30番台の選手でした。それだけアガシは動体視力と、このラケットを早く引く事でミスが少ないと言われている。

キ) リラックスの方法

- ①左手をポケットに入れて打つと力が抜け振り切りが良くなる。

また、体のバランスも良くなる矯正法です。



- ②呼吸法 … バウンド・ヒット — バウンドした時=「バウンド」・「トン」・「ン」
トン・ファー — 打つ時=「ヒット」・「ファー」・「ハー」と言う事で
ン・ハー —
 - ボールを見る事が出来る
 - リラックスできる
 - 集中できる
 - 緊張から解放される

ゆるいボールを打つ時…長く息を吐く。

早いボールを打つ時 …「ハー」と短めに息を吐く。

※スペイン、サンチェスアカデミーでは、相手が打つ時に「ハー」と息を吐く事でタイミングをはかる例もあるほど凝っている。

(人によっては、実践的でない)

ク) 道具を使って体のバランスをチェックする



8ポート(アメリカ製)



バランスボード

(ゴルフの上田桃子さんらのアカデミーでも使用されている。)
(四日市高校テニス部も。)

この道具の矯正率は95%。確実でした。
(全日本選手レベルでも試合の連戦でリハビリに来た選手をこれで修正出来ます。)

技術論

8 フットワーク

(初中級)



構え



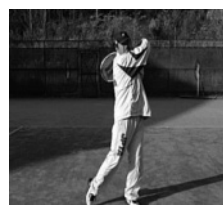
ラケットを引いて



細く動く



オープン



フォロースルー



ステップイン



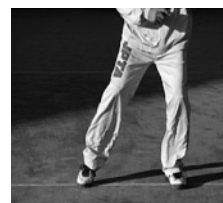
フォロースルー

① サイドステップで戻る



(上級になると以下のような方法もとられる)

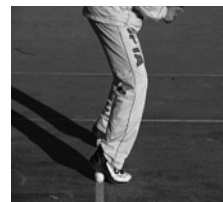
① 初めの一步を大きくジャンプ (構えの幅も広くなる)



② すり足を使うこともある



③ かかとを上げて構える



④ 戻る時キャリオカステップも入れる



上級プレイヤーになればボール1個分入るくらい上がっている

⑤ 片足ショット



アプローチで前へ行って、左足を蹴ってバランスをとる。

下って左足を上げてバランスをとる。

技術論

□初心者や運動不足な方達に「楽しく学べ」「フットワークも分かり易い」「トレーニングになり」「早くテニスの出来る」練習法の紹介。

ア) ボールに慣れる

ボール取り(手で)

●サイドTOサイド



●サイドTOサイド(アトランダム)

●前後



斜め前(FGS)

斜め後(FGS)

斜め前(BGS)

斜め後(BGS)

●だましをいれる。

- ・コーチは「前」と言って実際には後に投げる。
- ・口で言うのと実際を変えることによって演出力が身に付く。
- ・目的意識が身に付く。(試合の状況と同じ)

イ) ラケットでボール扱い

●ワンバウンド(表)10回



● // (裏)10回



● // (表・裏)10往復
2人で近距離



●ワンクッション／ワンクッション(表・裏)



●的当て



相手のターゲットに当てる
※集中力がつく。

技術論

ウ) ラケットでオフェンス・ディフェンス

先程、ボール投げをした要領をラケットを使用してミニテニス風に行う。

- ラケットワークを覚える
- ゆっくり打つ事を覚える。
- オフェンス(相手を動かす楽しさを覚える。)
- ディフェンス(フットワーク、反射神経が養われる。)

サイドTOサイド



サイドTOサイド(アトラダム)



フォアの前後

バックの前後

サイドTOサイド(アトラダム) ⇒ だましも

※上記のアイテムは、ショーンボーンやITFのカンファレンスを参考に考案しています。

<まとめ>

先日、プロテストの講習会で、モデル生徒のクリニック法で「魔法みたい」とフォームが変わった要因は、今まで述べた体の使い方などをチェックして出てきた結果です。

修造の恩師ボブ・ブレッドのレッスンも同じ考え方です。さらに見る視点が細かくなります。そして、[優先順位のつけ方]が上手いです。

体の構造・その人の性格・今までのスポーツ歴などを考慮して、良いレッスンが出来るよう皆さん研究しあいましょう。良いアイデアがあれば協会までご報告下さい。

JPTA Newsに掲載させて頂きます。

SPO BIZ スポーツビジネスの今 NOW

スポーツビジネス業界は、ますますビジネスの幅が広がっており、公共性の高さから今後も成長していくビジネスだと考えられます。

私たちテニス界にとっても、今後の発展の重要な鍵となると思われ、大変興味深いところです。

スポーツビジネスの現状を踏まえ、テニス界の未来を見据えつつ、テニスとビジネスの関わり合いを探っていければと思います。

「今の スポーツビジネスについて」

株式会社 電通
スポーツ局 開発事業部長 槇 英俊

電通スポーツ局に勤務しております、槇と申します。このたびJPTA Newsへの執筆をご依頼いただき、大変光栄であるとともに、とても懐かしく思いました。実は、もう25年以上も前になりますが、1980年代初めの学生時代にJPTA主催のセイコー・スーパー・テニス等の大会でラインズマンのアルバイトをさせていただいておりました。当時の写真が見つかりましたが、僕も福井烈さんもとても若くて、なんだか恥ずかしくなってしまう



1985年 セイコー・スーパー・テニス

す。寒さの忍び寄る秋口の代々木体育館で、大会期間中ずっと昼も夜もお弁当を食べながらの仕事でしたが、「世界中から集まる選手たちのために、檯舞台を作り上げるチームの一員になったこと。」が誇らしく、開場を待つ観客の列の横で、関係者入り口からIDを下げた会場

入りすることが嬉しかったものです。そしていつか「スポーツの舞台づくりの仕事がしたい。」と思うようになり、1986年に電通に入社。7年間普通の広告営業担当をしたあと、1993年に国際スポーツ分野を担当する部署に異動することができ、以来1998年の長野オリンピックや2002年のFIFAワールドカップなど、様々な国際スポーツ大会の開催に携わることができました。現在は、日本オープンゴルフ、来年7月に上海で開催される世界水泳、10月に東京で開催される世界体操の準備などを進めています。

FIFAワールドカップや世界水泳などの国際スポーツ大会は「全世界の人々が同じ時間に感動を共にする。」という他に類を見ない魅力的なコンテンツだと思います。このため「世界市場

へ打って出たい。」という企業がスポンサーとなり、競技会場にブランド表示を行って「国際中継映像とともに全世界に企業ブランドを伝えていく。」ということが行われています。1970年代後半～80年代の、まだインターネットや衛星放送などが無かった時代には、国際スポーツ大会の中継映像が「世界をつなぐ唯一無二のプラットフォーム」と評価され、世界市場への進出を狙うPanasonicや、Canon、Fujifilm、TDKなど数多くの日系企業の広告看板が、様々な国際スポーツ大会の競技会場を賑わしました。1990年代後半に入ると、SamsungやHYUNDAIなどの韓国系企業が進出し、最近ではEmirates (UAE)、Acer (台湾)、Midea (中国) など、国際市場への進出を狙う企業の顔触れも変わってきています。

一方で、「既に国際的なブランド認知は獲得したが、今度はそのブランド・イメージを全世界同時に変えていきたい。」という課題を抱えた企業が「全世界同時に伝わるプラットフォーム」として、国際スポーツ大会を活用する手法が生まれてきました。2002年と2006年にFIFAワールドカップを史上初の「FIFA ITパートナー」として協賛した東芝は、FIFAワールドカップ・キャンペーンをきっかけに、総合家電メーカーという企業イメージを、先進IT企業というイメージに全世界同時に変革することに成功しました。昨年開催された南アフリカ大会では、SONYが「FIFAデジタルライフ・パートナー」となり、「サッカーの熱狂あるところ、常にSONYのデジタル技術が感動を演出する。」というグローバルなブランド戦略を打ち出しました。南アフリカ大会では史上初めて3D映像による試合中継が実施され、これまでに体験したことのない「デジタル・ライフ」がSONYを通じて全世界に提示されました。

昨年12月、FIFAワールドカップが2018年にはロシアで、2022年にはカタールで開催されることが決定しました。振興著しいブラジルでは、次回2014年大会とともに、2016年にはリオで南米初のオリンピックが開催されます。

国際スポーツ大会は、2008年の北京オリンピック、2010



1998年 長野オリンピック

年のFIFAワールドカップ南アフリカ大会を皮切りに、ブラジル、ロシア、中東と、開催エリアを発展していく国々へと拡大していています。これらの新しい地域での開催は、スタジアムの建設、交通・宿泊インフラの整備など、開催準備のために国家レベルでの莫大な投資と努力が必要となりますが、国際スポーツ

大会を開催できるエリアが広がっていくことになり、スポーツの感動を広げていくことにもつながっていきます。そして国際スポーツ大会の「世界共通プラットフォーム」という価値は、今後も世界市場を視野にいれる様々な国の企業に活用されていくと思います。

一方、国内に目を移しますと、3万人の参加枠に33万人の応募が殺到する東京マラソンに代表される「参加型市民マラソン」が、スポーツ大会の在り方に、新しい視点を与えています。東京マラソンでは10,000円の参加費だけで、約3億円が集まり、大会開催経費の重要な財源となっています。一方、大会への協賛企業も、テレビ中継を通じたブランド露出だけではなく、ランナーを応援する家族、大会を支える1万人のボランティアを始め、沿道で応援する160万人々とともに、お祭りに参画する、という視点が生まれてきています。

また、twitterやFacebook、USTREAMなどの次々と誕生するコミュニケーションツールがスポーツの魅力を伝える新たな手法となりつつあります。昨年の東京マラソンでは、iPhoneを通じてUSTREAMで自分の走る様子を中継したランナーが現れました。このランナーのことは瞬時にネット上で話題になり、次々と応援メッセージが書き込まれ、USTREAM中継を見た人が実際のランナーに駆け寄って応援するという、ネット上の交流がリアル体験に逆流していく双方向メディアならではの現象が生まれました。これまでのテレビ中継では実現の難しい無名の選手と一般の視聴者との1対1のコミュニケーションの成立であり、「感動の広がり」はテレビ中継にはかないませんが、双方向のコミュニケーションを通じて、選手個人の感動が直接受け手に伝わっていくという「感動の深さ」については、テレビ中継とは異なるコミュニケーションなのではないか、と感じ始めています。こういう手法は、ひょっとすると、テレビ局が中継しな

いようなスポーツ大会にとって、新しい可能性を生むのではないかと期待しています。

最後に我々がスポーツ、テニスについて。私がラインズマンのアルバイトをさせていただいていた1980年代前半は、ボルグ、マッケンロー、レンドル、ベッカーなど、錚々たる選手たちが競い合い、大学にはテニス同好会が乱立するテニスブームの真っただ中でした。最近またフェデラー、ナダルというスター選手が現れ、クルム伊達公子選手の活躍もあって、人気に復活の兆しが出てきたのは喜ばしい限りです。

昨年よりWOWOWがウインブルドン、USオープン、全仏・全豪の4大会にジャパン・オープンを加えてテニス・ファンの期待に応える番組編成を開始しました。また、ジャパン・オープンのメイン・スポンサーが楽天になりました。WOWOW+楽天という新しいメディア企業の組み合わせにより、テニスの魅力が、より広く、より深く伝わっていくのではないかと期待します。そしていつかまた、80年代の熱気が戻ってくるといいと願っています。



2002年 FIFAワールドカップ



「時の人」

今回から始まりましたこの「時の人」では、テニス界のみならず、様々な分野で活躍されている方にお話を伺い、視野を広げてテニス界を盛り上げるヒントをみつけていきたいと思います。

第1回目は、2016年・2020年夏季オリンピックの種目に採用されたことで、急激にメディアにも取り上げられ激動の1年を経て来られた、ラグビー日本女子代表ヘッドコーチの萩本光威さんにお話を伺いました。

ラグビーといえば15人制がスタンダードですが、オリンピック種目に採用されたのは「セブンス」と呼ばれる7人制で、試合時間も前半後半7分ずつの14分間という、とてもスピーディーなものです。

「日本に女子ラグビーがあるの?」「競技人口は何人いるの?」といった問い合わせが協会に寄せられるほど知名度のない状態から、一挙にオリンピック出場、さらにメダル獲得に挑戦という目標を5年後に掲げて、どのように活動されているのでしょうか。そのあたりをじっくりと話して頂きました。

聞き手：金丸 由紀

ラグビー女子日本代表 ヘッドコーチ

萩本 光威氏

Mitsutake Hagimoto



「14分間で試合が終わる7人制は、観る人も短時間でたくさんの対戦が楽しめるんです」

金丸 こんにちは。お久しぶりにお目にかかれて嬉しいです！今日はよろしくお願いします。

さて、私は女子ラグビーが日本にあることも、失礼ながらよく知りませんでしたが、実際には過去にワールドカップに3回出場しているんですね！

萩本 第1回、第2回、第4回に出場しています。私は2002年バルセロナでの第4回に監督として出場して、1勝を上げる事ができました。但しこのときの出場資格は推薦方式で与えられるものでした。過去3年間に国同士の試合（テストマッチと呼ばれる）をしている実績が必要で、そのうち何勝かしていたらワールドカップに推薦されていた訳です。

金丸 そのテストマッチは協会や連盟が組んでくれるのですか？

萩本 男子のテストマッチはIRBが仕切っているの、上位国とそうでない国がうまく対戦するように対戦が組まれますが、女子は第4回大会以降に推薦方式から予選方式に変わったものの、正式にテストマッチが組まれる訳ではなく、自分達でマッチをセットしなければならないんです。

ヨーロッパでは男子に6カ国対抗戦や他のリーグ戦が古くからあり、女子もそれにならってやっていますが、アジアは男子ですら遅れており、リーグが存在せずヨーロッパのように試合経験が積みません。世界的な強豪といえば、やはりニュージーランド・イングランド・フランス・ウェールズなど男子が強い国は女子も強いんです。

日本の女子はといえば、各選手はそれぞれクラブチームに所属して練習はするものの、グラウンド探しから苦労しなければ

ならず試合経験を積むというところまでいかないというのが現状です。

金丸 さて、オリンピックに正式種目として採用されたのは7人制ですが、15人制と7人制とではどう違うのでしょうか？

萩本 もともと7人制は15人制のオフのトレーニングとして生まれたものなんです。15人制はポジションによって一番要求される要素が違うのですが、7人制は全員にスピードとスタミナが必要です。15人制と同じ広さのフィールドを7人で攻め守るのですから、7人制の方がコンタクトよりボール回しやランが重要になってきます。ボールが止まらずスピーディーになりますね。そういった意味で15人制のフォワード8人中、最前列のフロントローとロックの5人は7人制には向いていないかな。

また7人制は14分間で試合が終わるので、観る人も短時間でたくさんの対戦が楽しめます。開催日数や予算の関係でも、オリンピックに非常に向いていると思います。ワールドカップでも15人制が1ヶ月かかるのに対して、7人制は4日間で終わります。先日のアジア大会も3日間でしたね。

金丸 テニスも3セットや5セットマッチになると長いんですよ。よほど好きでないと何時間も見られないと思います。得点や勝敗も分かりづらいとも言われます。テニスもオリンピック用に思い切って試合方法を変えてもいいかも知れませんね。

「中国のマッスルに対抗するために、選手のフィットネスを強化することが急務です」

金丸 メンバーはどうですか？15人制と7人制の代表メンバーは違うんですか？

萩本 代表候補は15人制から主に選んでいます。フォワード第3列とバックス7人の中に、7人制に適した選手がいます。

現在日本の女子ラグビー選手で、オリンピック代表の対象になる年齢層は300人くらいいますが、先程もお話したように、15人制のフォワード前2列の5人は7人制に向いていません。従って7人制の候補になる選手はその中で100人もいない。代表候補となるような人材となると50人もいないのが現状です。そこで他の競技からも希望者を募るトライアウトを開催して、そこで抜擢した身体能力の高い人を含めて、現在45人くらいを代表候補として選抜しています。

金丸 45人は多いですね。大所帯の移動は大変ではないですか？

萩本 大変です。現在は月1回、一泊二日か二泊で合宿を行っているのですが、仕事の関係で来られない場合もあるので、なかなか全員が集まれません。合宿でスキルのレベルを上げて、次回参加した時にそのレベルに戻すのに時間がかかるので、強化の継続とステップアップが難しいのがジレンマです。また、年2回しか正式な試合がない現状ではなかなかベストメンバーには絞り込めず、彼女らのポジションは「代表候補」のままです。「日本代表」用には協会に予算はありますが、「候補」用には予算がないので合宿参加も自己負担となり、本人にお金がないと合宿に来られない。これも全員が集まりにくい状況を作っています。

その打開策として、各地域の企業やクラブの協力を得て「パートナークラブ」となってもらい、候補選手がトレーニングできる場を全国に分散しようとしています。例えば神戸製鋼のラグビーグラウンドで活動している「シックス」というチームはNPOですが、ここでもデルケースを作り、同じトレーニングメニューを全国数箇所で開催できるよう準備を進めています。

金丸 ウェイトトレーニングですか？

萩本 そうです。世界やアジアNo1のカザフスタンとの一番の違いは、経験もさることながら実はアスリートとしての筋力なんです。それがパスやキックの長さ、当たりや引き倒しの強さにつながる。例えば中国はオリンピックに向けて、7人制ラグビーにバレーボールやハンドボール選手のNo2を集めている。No3やNo4ではなく中国のNo2のマッスルですよ。今日本は、選手のフィットネスを強化することが急務です。

金丸 そんな中、2016年リオデジャネイロでのオリンピック出場という目標を掲げた現時点で、日本女子ラグビーは世界何位で、オリンピックに出場するためには何位以内でなければならないのでしょうか？

萩本 オリンピックの概要自体がまだ明確ではないですが、出場枠は12チームではないか、そして多分アジアに1枠あるのではないかとされています。

女子15人制は現在世界50カ国中16位、アジアでは2位（カザフスタンが1位）です。7人制はアジア大会では5位で、世界では昨年13位でした。

しかし、中国やタイはオリンピックに向けて7人制に特化して予算をかけ本腰を入れていて、中国は世界でも勝てると言っています。韓国はまだ参戦していませんが、始めるなら7人制に特化するでしょう。カザフスタンは軍隊の学校で強化を行っています。

金丸 それに対して日本は5年後に向けてどうして行きたい、行かねばならないとお考えですか？

萩本 「日本女子ラグビー戦略計画2010-2016」をもとに、女子強化部門ミーティングで個々の課題…例えば高体連との連携や指導者育成、2011年の優先事項、タレント発掘などについて話し合っただけで進めています。中長期目標としては、15人制で2014年ワールドカップ出場・2018年には1勝、7人制では2016年・2020年オリンピックメダル獲得。その為の短期目標も各年毎に設定しています。正直厳しい目標設定ではありますが、やはり「オリンピック」となればメダル獲得を目標にしなければならないんです。

「スカウトは、アスリートであって勝つために地獄を見てきた人を選びます」

金丸 その「タレント発掘」ですが、他競技からスカウトしてきた人が日本代表としてすぐに通用するものですか？例えばテニスでは、ゴールデンエイジである程度のテクニックを身に付けていないと、日本代表選手レベルになるのは難しいのが実情ですが。

萩本 私は、ラグビーではなれると思っています。今年スカウトした中には、ハンドボールの韓国リーグで戦っていた選手や、バレーボールVリーグの下部組織でMVPを取った選手、砲丸投げと投擲（槍投げ）から転向した選手もいます。スカウトして数ヵ月後にはイングランド遠征やアジア大会に出場しました。相撲の重量級世界チャンピオンと、なぞなたの世界チャンピオンもいますよ。

こういった選手はメンタル面や体力・フィジカルが優れているということはもちろんあるのですが、「勝つため」に地獄を見たり本当に血を見たりしているので、「勝つこと」に対して強い執着心を持っており、これが競った試合であと一歩頑張る原動力となります。

日本の女子ラグビーは競技人口が少ないので、長くやってもスキルやメンタルが切磋琢磨されていない部分があります。また経験者であってもコーチングで変な癖がついていて、こちらの思うパスが出せなかったりする場合もあります。つまり正しく指導することで技術的に追いつける可能性があるということです。

金丸 それではゲームを構成する残りの要素、「戦略」はいかがでしょうか？コーチの頭の中にさえあればOKですか？

萩本 それは無理です。やはりキャプテンとゲームリーダーの能力によるところが大きい。しかしこれは今の女子チームに確立したものがないので、反対にこれからいいものを作ることができるとも考えています。

現在の男子はサインプレーが多く動きのパターンが決められていて、意外に基礎が抜けていたり自分で戦略を考えたりしない選手が多い傾向にあります。それでは世界で勝てない。だから女子は最初から自分で考えることができるチームを作ろうとしているのですが、いかにせん試合経験が少ないので…。

金丸 テニスでは女子は男子のスピードを借りて練習をすることができるので、得な部分はあると思います。ラグビーでは、男子と女子は指導していてやはり違うものですか？

萩本 全く違いますね。最初は男子のトレーニングを真似ていたけれど、2002年の少し前に違いに気付いたんです。女性は真面目で勉強熱心で、物事の身に付け方が瞬発型よりは持久型かなと。最初は出来なくても何とかしようとする仕事量と、ミスが起きても何度も辛抱強くチャレンジする真面目さが女性にはあるなと気付きました。

金丸 なるほど。その勤勉な点を活かして、スカウトしてきた選手を起爆剤に未知数の女子チームを早急に作ろうとしている訳ですね。

金丸 さて、そうして昨今メディアにも取り上げられるようになった訳ですが、ブログを開設している選手もいますね！アジア大会でキャプテンを務めた鈴木彩香選手や大川あゆ美選手は「美しすぎるラガー」とのことですが？

萩本 そんなことはないですよ(笑)。でも、パッと見てラグビーしているようには見えないかな。

そういえば本当のモデルもいますよ。ヴァネッサ・亜耶・ウォーターハウスってカナダ人とのハーフで神戸出身の。

金丸 モデルさんがラグビーやって大丈夫なんですか？怪我するでしょう？

萩本 元カテのジュニア世界チャンピオンだから、当たることに対して恐怖心がないの。そしてこの選手はボールに対する嗅覚と言うかセンスがあります。ジュニアでも世界チャンピオンってすごいですね。

「今は7人制に特化してオリンピックの本戦に出場できたら、成果が必ず15人制にも返ってくると思うんです」

金丸 そんな感じで急に注目されるようになると、どうでしょう、以前から続けて来られた方達は戸惑っていらっしゃる部分もあるのでは？

萩本 そうですね、それはあります。女子は長らく予算も正式な組織もなく手弁当で楽しんで来た環境が、オリンピック種目になった瞬間に激変したので戸惑いはありますし、そもそもは15人制が本筋だ、7人制と15人制どちらを優先するの？と言った声もあります。

金丸 萩本さんご自身はいかがですか？長くラグビーを愛して来られて、昨日や今日始めた人がラグビー日本代表でオリンピックに出るということに対して。

萩本 7人制ってそういうもので、15人制とは違うものという認識です。15人制はゲーム的特質的に「縦のライン」と言われる指揮官がいて、各ポジションに役割分担されるので経験値が要りますが、7人制は14分間の速攻ゲームです。ラグビーとしての経験値に比べフィジカルの比率が高くなる。従っていわゆる「新規参入」がしやすいゲームだと思うのです。

私は、日本女子ラグビー界のことを考えると、今は7人制に特化すべきだと考えています。7人制は若手バックスの「抜く力・止める力」のトレーニングとして優れているので、7人制に対してJOC予算のある今、これに特化して7人制要員を強化し、15人制のフロントローやロックはそれとは別に毎年スカウトも継続して行いしっかりとトレーニングしておけば、これらを合わせるとユニットとして強い力のあるチームができる。

また、7人制に特化してオリンピックの本戦に出場できたら、注目度が上がり予算も増える。成果が必ず15人制にも返ってくると思うんです。

金丸 限られた資金を最も有効的に使いつつ、日本の女子ラグビーを強化していくには、ここは選択の勇気が要するということですね。

萩本 私はそう思います。オリンピックという起爆剤で本腰は入れたいけれど問題は山積み。予算が不足している中でも代表メンバーが絞れず強化の継続が難しい状況、資金調達の工夫、地域パートナークラブの有効活用、指導陣の確保など。試行錯誤しながら環境を整えるべく頑張っている、というのが日本女子ラグビーの現状です。2016年リオデジャネイロでのオリンピックまでの5年間はあっという間だと思いますが、まずは本戦出場をめざして頑張ります。

金丸 今日で日本女子ラグビーがずいぶん身近になった気がします。応援していますので頑張ってくださいね！今日は本当にありがとうございました。

ラグビーは、もともと国同士・民族同士の戦争というくらいの勢いの、熱い戦いが身上です。それだけに試合終了後の「ノーサイド」という言葉がかっこよくて、その後の選手同士の交流会が大切にされてきた文化のあるスポーツです。また、頻繁にルールの変更が行われるのですが、これは観る人の為に、ボールや動きを止めないようにとの配慮がなされているそうです。そのあたり、テニス界のヒントになるかもしれません。女子ラグビーは本当にこれから始まるといった感がありますので、みんなでも応援していきたいですね。

ラグビー女子日本代表ヘッドコーチ 萩本 光威 氏

経 歴

- '77年3月 報徳学園高校 卒業
- '77年4月 同志社大学 入学 *4年次 大学選手権初優勝
- '82年3月 同志社大学 卒業
- '82年4月 (株)神戸製鋼所 入社 *V1～3 レギュラーとして出場 (*V4～7 リザーブ選手及びアドバイザー)
- '98年3月 ヘッドコーチ就任 *'99～'00 社会人大会・日本選手権 優勝
- *'00～'01 // . // //
- *'03～'04 トップリーグ 初代チャンピオン

役 職 (株)神戸製鋼所 秘書広報部 次長
女子日本代表ヘッドコーチ
'05～'07日本代表監督
'07～'09 U19日本代表監督

2010 コンベンション 開催報告

報告 特別委員会
コンベンション部長
篠崎 浩信

平成22年10月4日(月)～5日(火)に38周年JPTAコンベンションを開催しましたので、ご報告させていただきます。

東京有明での開催は、今回で3年目を迎えます。開催場所を東京有明としている目的は、交通の便から全国の会員の皆様が集まりやすいこと、日本で最高峰の大会であるジャパンオープンに合わせて開催することにより、テニスコミュニケーションを促進し、テニス界の発展に協力すること、そして会員の皆様をはじめ、参加いただく方々に喜んで頂けるプログラムを提供することです。

今回は、スペシャルゲストとして、何人もの世界のトップランカーを育てあげた実績を持ち、錦織圭選手を世界に送り出したGabriel Jaramillo(ゲイブリエル・ハラミロ)氏をお迎えしました。基調講演に続く、オンコートセミナーでは、選手を育てる効果的指導法とすぐに役立つ練習法を紹介して頂き、参加者には世界レベルの技術指導を体感して頂くことができました。ハラミロ氏のセミナーの詳細は、雑誌スマッシュでも掲載されましたが、関西で行われたセミナーとともに、協会ホームページにてご報告させていただきます。

3年前、錦織選手のジュニアデビスカップ監督であった村上武資氏を皮切りに、昨年はジュニア時代のコーチであった柏井正樹会員、そして今回はハラミロ氏と、錦織選手を支えたコーチの方々の講習を例年開催でき、今回も多くの方々にご参加頂いたことは、協会としても大きな喜びです。来年度の錦織選手の活躍を皆様とともに期待したいと思います。

また今回は、コンベンション開催前に、テスター会議、資質向上、広報・企画推進委員会と、各委員会を開催し、コンベンション開催を、来年度事業に向けての良き話し合いの場とする試みも行われました。そしてコンベンション開催後には、地区長会議を開催し、各地区での活動の活性化にも取り組みました。パーティーでは、各委員会、地区長会議に参加された方々にもご参加頂き、会員の皆様は和やかな雰囲気の中で歓談されていました。

末筆となりますが、コンベンション開催に当たり、ご協力頂きました関連企業・会員の皆様、ご参加頂きました皆様、ハラミロ氏の招致に御尽力頂きました石井秀樹会員、富岡信也専務理事、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。



ハラミロ夫妻



公認企業の皆様



協力賞 北九州ウエストサイドテニスクラブ



優秀コーチ賞 綿貫会員



ハラミロ氏 基調講演

基調講演



オンコートセミナー



MASTERS CLASSIC

～ALL-STAR GAME 2010～

マスターズクラシック開催

マスターズクラシック実行委員会
報告 米田 良祐

2010年12月4日(土)川崎市とどろきアリーナにて「マスターズクラシック、オールスターゲーム2010」が開催されました。今年も国内外で活躍した往年の名手から現役、ジュニアまでの総勢18名が集まり、マスターズクラシック主旨である「国内テニスを元気にする」「観戦の面白さを伝える」「観戦ファンを増やす」を広めるために協力をさせていただきました。



当日は、晴天に恵まれ開催には「最高」というべき日となりました。残念ながら、当初の予想よりも少ない来場者数でしたが、昨年より内容、選手パフォーマンスが向上し、ゲーム全体のレベルアップをしたことから観客を楽しませることができました。実際にこちらの想いが観客の方にも伝わったのか、会場全体が熱気に包まれ、大いに盛り上がりました。

その結果は来場者に行ったアンケート調査では「面白かった:93%」「来年も来たい(内容による、を含む):99.9%」という結果でも明らかになりました。そして、来年度以降についても、「開催してほしい!」という声が多く寄せられました、本当に有難いと思っています。

今回の開催で、来場者の多くのが満足していただけたことは大変喜ばしいことですし、それに加えて「テニスを観る魅力を伝える」ことも100%とは言い切れませんが着実に良い方向へ向かっていると感じています。しかし「観戦ファンを獲得」という目標に対しては、PR、宣伝の不足、業界全体へ開催コンセプト周知など、改善すべき問題が山積しています。このハード

ルを越え、より良い大会を作る為には、主催である日本プロテニス協会をはじめ、関係者の皆様の更なるご協力が必要となります。今回の大会を無事に終えることができましたのも、ご協力いただきました皆様のお陰だと思っております。この場をお借りし、お礼申し上げます。有難うございました。



出場選手

<男子>

石黒修、渡辺功、坂井利郎、白戸仁、竹内映二、増田健太郎、谷澤英彦、山本育史、石井弘樹、鈴木貴男、松井俊英、内山靖崇

<女子>

佐藤直子、神尾米、長塚京子、吉田友佳、佐伯美穂、小畑沙織

当日の内容

- 往年の名手を2チームに分けての団体戦
- 現役トップ選手3名がスペシャル参加
- OB・現役選手による生実況解説
- MC、音響、映像(現役選手からの応援メッセージ)を使った演出
- 応援型プログラムを作成
- 選手からの来場者抽選会
- 選手全員と交流を持てるサイン会、大抽選会を開催
- 次世代選手支援





能登国際開催報告

JPTA能登国際女子オープンテニス2010
トーナメントディレクター 佐藤 直子



JPTA能登国際女子オープンテニス2010は今年も無事終了しました。優勝したのはタマリナ・タナスガーン(タイ)でした。彼女が、能登国際の4週間後に行われたHP女子オープン(22万ドル)のシングルス決勝でクルム伊達公子選手を破って優勝したことから、その名を日本中に知られることになりました。そして、それは能登国際をも高めてくれた気もして、クルム伊達選手が負けたことは残念ですが、能登国際のディレクターとしては喜ばしい気もしています。

今回は特に出場者に恵まれました。ウィンブルドンのシングルスベスト8に入ったことのある選手が2人(タナスガーン選手とヤコーク・バスキ選手《インドネシア》)、その他、ダブルスで杉山愛選手と共に数々のインターナショナルトーナメントを優勝している藤原里華選手、ウィンブルドンジュニアで準優勝の石津幸恵選手などが、美しい海を見下ろす藤波運動公園(能登国際の会場)で迫力あるテニスを披露してくれました。

トーナメントディレクターの私もその場を離れたくないような白熱した試合が多く、会場を訪れてくださった方々は、そのスピード感、技術、闘志に、大きな刺激を得て帰られたことと思います。

残念だったのは、まる1日台風で試合なしの日があり、また大会運営上やむを得ずコートを室内に移した日が2日ありました。しかし、それでも4面の立派な室内コート“WAVEのと”があるのは藤波運動公園の強みです。最終日のシングルの決勝も室内になってしまいましたが、無事日程通り大会を終えることができました。

今回新しい企画として、藤沼常務理事御紹介の山田様のお力で最終の金、土、日曜日に総合受付前でB級グルメ物産展を開催しました。この企画は大会会場にお祭りの雰囲気を感じ出し、来場者に好評でした。側

面から大会を盛り上げてくださった、山田様そして藤沼常務理事にこの場を借りて感謝申し上げます。

今回、もう一ついつもと違ったことは、能登町周辺の市町村からの応援です。特に、輪島商工会議所様から強い応援を受け、また珠洲市の泉谷市長もウエルカムパーティーにご参加くださり、今後の能登国際女子オープンテニスへの支援を約束してくださいました。実は実行委員会で能登町を訪れるついでに、「当たって砕けろ」精神で、輪島商工会議所様、珠洲市様へ御挨拶に伺ったのです。その他にも、数か所伺いました。きっといつかご支援いただけることと、信じています。

この能登国際女子オープンテニスは「テニスの町能登町」で行われる国際トーナメントです。能登町の皆さまの温かい受け入れ体制が、沢山の国内外からの有力選手の参加意欲を喚起していることは間違いありません。しかし、周りの市町村からの支援により、その素晴らしい体制がより充実したものになるはずです。

日本プロテニス協会が国際トーナメントの運営を行うことは、素晴らしいOn The Job Training の場ともなり、また直接、選手、観客の皆さま、そしてボランティアのみなさまと触れ合う貴重な体験です。会員のみなさまにも、このJPTA能登国際女子オープンテニスを一緒に応援する気持ちを持ていただければ幸いですし、日本プロテニス協会にも、この大会を大切に育てていく意志を貫いて頂きたいと願っています。

最後になりましたが、本当に大変な仕事を黙々とボランティアでやってくださった能登町の皆様、石川県テニス協会の皆様、周りの市町村の皆様、北國新聞社様、テレビ金沢様、北陸放送様、鹿島建設様、その他沢山のJPTA能登国際女子オープンテニス2010を応援してくださった皆様に、心を込めてお礼申し上げます。



<ダブルス>
優勝:タマリナ・タナスガーン(タイ)
藤原里華(日本)
準優勝:青山修子(日本)
井上明里(日本)



<シングルス>
優勝:タマリナ・タナスガーン(タイ)
準優勝:ルアンナム・ヌドゥニダ(タイ)



【選手紹介リレー】

ProPlayer
Interview
プロプレイヤー
インタビュー

今月号から始めました、この「選手紹介」のコーナーでは、往年の選手から若手選手まで出来るだけ多くの選手の皆さんにインタビューさせて頂き、プロとしての志や垣間見える素顔の部分をご紹介していきたいと思います。初回のページを飾るのは「土居美咲プロ」です。土居プロは記憶にも新しい昨年の「ニック全日本選手権85th」に優勝するなど、今後の活躍と注目の高さに期待大です。日本のテニス界に旋風を巻き起こし、私たちを楽しませてくれるに違いありません。

土居美咲プロへのご質問

Q01

ジュニア時代から、段々と勝ち進めるようになって、今プロ選手になられた経緯の中で、節目を越えてこられたポイントになったものは何ですか？

また、その時に自信を持っていたものや、頑張るきっかけになったもの、これだけは誰にも負けなかったなど、印象に残っていることがあれば教えてください。

ジュニアのU14全国選抜で優勝したときです。その優勝をきっかけにワールドジュニアの代表に選ばれ、1ヶ月近く遠征に行かせてもらいました。初めてのことでありましたが、その1ヶ月という短い期間の中で、テニスも精神面でも成長できたと思います。

Q02

これまでの選手生活で、ターニングポイントとなった試合について教えてください。

全仏で予選突破をしたときです。グランドスラムは誰もが夢見るところです。そこで予選を突破して本戦で戦えたことは本当に嬉しかったです。次は本戦で勝利したいです。

Q03

自分に自信がつき、プロを目指そうと考えたのはいつ頃ですか？

自信がついたところではないけれど、プロを本気で目指そうと思ったのは、グランドスラムのジュニアに出場したときです。本物のプロを間近で見て、ここでプロになって大観衆の中でプレーしたいと思いました。

Q04

憧れていた選手、今目標にしている選手はいますか？

好きな選手はエナン選手や国枝選手です。ただ、こうなりたいという選手はいなくて、自分らしく自分の個性を活かして戦っていきたくです。

Q05

厳しい状況に立たされたとき、モチベーションを上げる方法はあるですか？

今までやってきたことを信じて自信を持って戦うことです。

Q06

土居プロにとって「コーチ」とはどのような存在ですか？

試合などで一緒に戦っていけるような存在です。

Q07

これからプロプレイヤーを目指すジュニアたちに、練習の仕方や心構えなど、ひと言アドバイスをお願いします。

一つ一つの積み重ねが自分の夢や目標に近づいていくと思います。ただ、頑張りすぎも良くないので、頑張るときは頑張る、楽しむときは思いっきり楽しんで！

Q08

リフレッシュする時間がとれたとき、一番したいこと、または今ハマっていることがあれば教えてください。

買い物、映画、旅行、遊ぶ…いろいろ！

Q09

最後に、土居プロを応援しているJPTA会員へのメッセージをお願いします。

これからどんどん世界に挑戦して、グランドスラムで活躍できる選手になれるように頑張ります！応援よろしくお願いします！！



写真提供: (株)ダンロップスポーツ



今月号より始まります「会員紹介」です。今年は地区会が再稼働して3年目に突入します。地区長や地区会幹事の皆様からの情報を基に、各地区で活躍している会員をピックアップし紹介していくことになりました。

今回は北海道地区と四国地区からの紹介です。



遠藤 真彦会員



四国地区地区長 井澤義治

JPTAのメンバーの皆さんこんにちは。

「頑張っているJPTAメンバーの紹介」という事で四国地区からは遠藤真彦会員をご紹介します。

テニスアリーナガーデンに勤務する遠藤会員が本格的にジュニアの強化育成を始めたのは、ちょうど2年前でした。「挑戦する心や協調性を礎に、倫理感を持った豊かな人間を育てる。」「コートでのルールや他者と接し方を通じて、判断力・対応力を習練する。」という指導理念の下、「おもいやりの心」と試合で「勝つ喜び」を伝えるジュニア強化チーム「ガーデンテニスアカデミー(GTA)」が発足し、遠藤会員が担当することになりました。発足当初は技術・体力テスト・親子面接等を経て、少人数から始めました。

遠藤会員はオンコートでの指導のみならず、定期的な体力測定や試合会場でのアドバイスも欠かしません。子供達への細かな配慮と大きな心で常に信頼関係を保ちながら、昨年は県内大会で4名の優勝者や四国大会への出場者を輩出する事ができました。設立して2年で子供達に「勝つ喜び」を伝えることができたことは子供達の努力と、遠藤会員の誠実に実直な人柄とテニスに対する想いが実った結果ではないかと思っています。

日頃の練習では、テニス技術は勿論のこと、子供達が自ら考えて行動し、高い意識を持つことができるように指導しています。一日一日を大切に、価値のあるレッスンだと感じて貰えるよう日々努力をしています。

あっ、そうそう。遠藤プロはお花の小原流の免許も持っておられますので、施設の玄関やフロントに彩も加えてくれます。



井澤 英基会員



氏名 : 井澤 英基
年齢 : 36歳
血液型 : O型
テニス歴 : 19年
ライセンス : JPTA プロフェッショナル1
趣味 : ゴルフ
レッスンモットー : テニスの全てのお客様と一緒に楽しむ!!
好きな言葉 : 向上心、前向き、気合い、根性

北海道地区幹事 笹島誠悟

今回、北海道地区からは宮の森スポーツ倶楽部所属の井澤英基会員を紹介します。

現在、井澤会員は宮の森スポーツ倶楽部岩見沢校と東麻布校を兼任でレッスンを行っています。岩見沢校では責任者の立場にあります。一般クラスのレッスンでは一人一人に対する指導が非常に丁寧ということで、老若男女問わず非常に人気があります。ジュニアクラスでは選手育成にも非常に熱心で保護者にも信頼が厚いコーチです。レッスン以外の仕事についても率先して行動を起こすなど、非常に積極的で、他コーチからも信頼も厚いです。

さらに、井澤会員には「審判」というもう一つの顔があります。毎年、北海道では「札幌国際オープンテニス」を行っており、井澤会員は5年連続で主審を務めています。海外留学の経験があり、海外選手への対応もスムーズに行えるということもあり、地元主審の中心的存在として活躍されています。

最近では、12月4日(土)に川崎市とどろきアリーナで行われた「Masters Classic~ALL-STAR GAME 2010」の主審として呼ばれるほどです。

今年も「札幌国際オープンテニス」を行う予定です。会場にお越しの際は是非、井澤会員の主審姿をご覧ください。



平成22年度 地区長会議開催

- 日 時:平成22年10月5日(火) 午後13:30～15:40
 ■場 所:東京ファッションタウンビル9階 901号室
 ■出席者:佐藤(北海道)・門脇(東北)・安間(北信越)・高澤(神奈川)・冨塚(千葉)・柴田(東海)・林(関西)・大下(中国、梶下代理)・井澤(四国)・石津(九州)・富岡(資格認定委員会委員長)・安川(資質向上委員会委員長)・檜垣・金丸(特別委員会地区会部会委員長、副委員長)・中城・御領原(事務局)
 欠席者:大森(東京)・菅原(埼玉)
 (敬称略)



2010コンベンションの終了後、平成22年度地区長会議が開催されました。地区長の皆様には、事前に各地区会会議を開催、議事録の作成と提出をして頂き、会議は各地区会議事録を基に進行了しました。地区長からは、今期の進捗状況から来期の事業計画をはじめ、各地区の希望や問題点なども積極的に提議がなされ、出席された富岡委員長、安川委員長、檜垣委員長より各々の分野についての回答がなされました。保留事項については、次回常務理事会、理事会に挙げて検討していく旨の説明がなされ、会議は無事終了しました。

地区便り [東北地区]



白神山地や十和田八幡平など、世界に誇れる自然環境を保有する東北地方。今でも古い文化や伝統的な祭りが残り、人々の暖かい人情が溢れています。毎年山形県ではNGTやトーナメントが開催されており、今後はもう一歩踏み込んで活動をしていきたいという東北地区門脇地区長より、たよりが届きました。



東北地区
地区長 門脇 章

明けましておめでとうございます。東北地区地区長の門脇 章です。

東北地区は北国と言うイメージ通り昨年の冬は雪も多く外でのプレーに随分影響が出ました。今年は、雪の少ない冬になってくれる事を望んでいます。

現在、東北地区でプロテニス協会に登録されている人数は19名で東北6県全てに会員がおります。(青森1名・岩手1名・秋田4名・宮城3名・山形3名・福島7名)

昨年イベントとして、①ニュージェネレーションテニスジュニアスカウトキャラバン②JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT (U-13・U-15)の東北地区山形大会の一会場開催となりました。

今年は、会場を1県増やす事によりプロテニス協会のイベント活動普及に努め、東北地区会員同士の交流を図る切っ掛けになればと考えております。

また昨年、山形大会のイベントにご協力いただきました渡辺理事長、田村伸也プロ、高内博之幹事、保護者の皆さん、有難うございました。

資格認定委員会 プロテスト(UPテスト)資格昇級者

■日 時:9月5日(日)、6日(月)
 ■会 場:みのたにグリーンスポーツホテル(兵庫)
 ■受験者数(新規含む):16名

会員番号	氏 名	資格	勤務先
3460	塩見 一成	P2	私立土佐女子中・高等学校
3571	小泉 哲	P2	(株)アオノリゾート
3573	松田 恒平	P3	M's企画
3593	田中 弘樹	P3	コープこうべ協同学苑テニススクール
3607	森 大祐	P3	自由が丘インターナショナルテニスカレッジ

■日 時:10月10日(日)、11日(月)
 ■会 場:ロングウッド長久手(愛知)

■受験者数(新規含む):18名

会員番号	氏 名	資格	勤務先
3540	小川 敦史	P2	守山グリーンテニスクラブ
3581	大脇 佑介	P3	テニスラウンジ港

■日 時:10月29日(金)、30日(土)
 ■会 場:宮の森スポーツ倶楽部 苫小牧校(北海道)
 ■受験者数(新規含む):5名

会員番号	氏 名	資格	勤務先
3588	伊藤 ゆめ	P2	宮の森スポーツ倶楽部 宮の森校

■日 時:11月22日(月)、23日(火・祝)
 ■会 場:トップインドアステージ氷川台(東京)
 ■受験者数(新規含む):17名

会員番号	氏 名	資格	勤務先
2413	金子 健一郎	P2	TOPインドアステージ津田沼
2800	渋谷 一義	P2	TOPインドアステージ亀戸
3368	田ノ澤 真也	P2	(株)エバグリーン
3525	森 大輔	P2	本厚木ローンテニスクラブ
3600	金子 智則	P2	(株)ソカダブランニング
3609	椎名 史人	P3	自由が丘インターナショナルテニスカレッジ

■日 時:12月6日(月)
 ■会 場:アオノリゾート(兵庫)
 ■受験者数:1名

会員番号	氏 名	資格	勤務先
3096	井澤 英基	P1	宮の森スポーツ倶楽部 岩見沢校

新入会会員挨拶

※ 入会手続完了の新規会員様

氏 名	資 格	勤務先
太田 直輝	インストラクター	(株)テニスラウンジ・テニスラウンジ港
日々のレッスンの中で、テニスを通じてたくさんの方が楽しむことはもちろんの事、挑戦することや努力することの大切さを感じ、その中から自分に合わせた目的や目標を見つけてもらえるようにしていきたいです。		
望月 健司	プロフェッショナル3	自由が丘インターナショナルテニスカレッジ
初めまして自由が丘インターナショナルテニスカレッジの望月健司と申します。スクールでは、キッズから一般のクラスまで幅広くレッスンをしています。特にジュニアは選手クラス(低年齢)を担当している関係で、JPTAニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバンの第一回よりお世話になっています。今後はますますジュニア選手の育成、強化のお手伝いが出来ればと思います。宜しくお願い致します。		
大菊 成之	プロフェッショナル3	エバグリーン・テニスフォレスト横浜
分かり易いアドバイスをお心がけています。テニスで一緒に練習する機会がありましたら、どうぞよろしくお願い致します。		
原 弘幸	プロフェッショナル3	(株)エバグリーン
この度の試験を通じて分からなかった事や、レッスン中に何を見るか?ということが少し分かったと思います。大変勉強になりました。入会後は、この経験を活かし頑張っていきたいと思っています。		
鴻巣 雅行	プロフェッショナル3	MTSテニスアリーナ三鷹
楽しく分かり易くをモットーにレッスンをしております。現在、三鷹市でレッスンをしておりますので是非一緒にテニスを楽しみましょう。		
坂田 圭祐	プロフェッショナル3	Team 104
プロコーチになり、教えることに責任を感じています。まだまだ未熟なので日々勉強して恥ずかしいレッスンをしなくてはならないと思っています。私は「やさしさ」が持ち味だと周りから言われているので、その「やさしさ」を生かしながら良いレッスンを行いたいと思っています。		
入江 正和	プロフェッショナル3	(株)イースタウンテニスクラブ
この度、日本プロテニス協会に入会させて頂いた入江正和と申します。まだまだテニスコーチとして未熟ではありますが、みなさま方と一緒にプロテニスコーチとしてのレッスンを頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。		
山田 裕子	インストラクター	和歌山インドアテニスクラブ
新規の方も継続の方も明るく、楽しくレッスンができるようなコーチを目指していきます。		
吉岡 準	プロフェッショナル3	江坂テニスセンター
新しく入会します吉岡です。初心を忘れず頑張りますので、よろしくお願い致します。		
錦織 聖子	インストラクター	(有)エイベックス
よろしくおねがいします。		
井上 良一	プロフェッショナル3	(有)エイベックス
JPTAに入会でき、うれしく思っております。プロとして質の高いレッスンをを行い、常に自分を磨き続けていきたいと思っています。入会できたので、いろんなコンベンションへ参加していきたい知識も増やしていきたいので、みなさん御指導の程よろしくお願い致します。		
山口 博史	プロフェッショナル3	スポーツクラブエスタ諏訪野
この度、入会させて頂く山口博史です。福岡、九州、テニス界の発展に最大限努めて参ります。何卒宜しくお願い致します。		

氏 名	資 格	勤務先
田中 秀幸	インストラクター	(有)三重グリーンテニスクラブ
いろいろ考え、実行し、自分らしくレッスンをしていきたいです。		
高井 和彦	プロフェッショナル3	三重グリーンテニスクラブ
資格をとったことに満足せず、今まで以上にいろいろなことを勉強し、がんばっていききたいと思っています。		
向井 祐介	インストラクター	テニスラウンジ コムズ校
これからも自分の勉強を怠らずテニスの知識、技術を磨いていき、より質の高いレッスンを提供していきたいと思っています。そして、この資格を生かしてこれから先もテニスの楽しさをより多くの人に伝えていきたいと思っています。資格に関しては、まだインストラクターなのでさらに上を目指したいと思っています。		
小島 慶久	プロフェッショナル3	(株)テニスラウンジ東浦校
愛知県出身、A型、水瓶座。戦歴など特にありませんが、一生懸命がんばります。常に資格を持っているという責任を感じつつ、ひとつひとつのレッスンや一人ひとりの生徒に対して、より良いレッスンを心掛けていきます。		
松岡 篤史	プロフェッショナル3	ロングウッドスポーツ(株)
JPTA会員の諸先輩方とともにテニス普及に努めていきたいと思っています。		
永井 啓文	インストラクター	テニスラウンジ鈴鹿校
多くの方にテニスの楽しさを伝えていけたらと思います。そしてテニスを通じ少しでも社会や地域に貢献ができるよう頑張ります。		
服部 朋一	プロフェッショナル3	テニスラウンジ東浦校
今回のプロテストを受講し自分の未熟さを痛感しましたが、これからの課題も見つかりました。もっとテニスコーチとして、人として成長していきたいと思いました。指導法次第で上達や楽しさが変わるということが再確認できましたし、これからもテニスを通じて皆様の生活がより楽しく、豊かになっていただけるよう、よりテニスに興味を持ていただける努力をしていきたいと思っています。今回のプロテストで学んだことを自分のプロコーチとしての成長と生徒の上達に生かしていき、これからもテニスの素晴らしさ、楽しさを伝えていきたいと考えています。		
平田 勇一	インストラクター	テニスラウンジ知丘校
JPTA入会をきっかけに、さらにテニスをたくさんの方に楽しく教えられるようにがんばっていききたいと思います。		
小林 正明	プロフェッショナル3	すがの台テニスクラブ
今回のプロテストでは最低でもP2の資格を取得したいと考えていましたが、残念というか情けなく思っています。短時間での初対面の人に対するグループレッスンの難しさを痛感しました。ただいろいろな意味で久しぶりに刺激を受けました。後、何年この仕事を出来るかわかりませんが、コーチという仕事を続けている限り常に刺激を求めて活動していきたいと思っています。(自己PR)明るく・楽しく・正しくをモットーに、ジュニア〜一般、選手迄それぞれの目的に合った指導を心がけていきます。		
安井 電也	インストラクター	ウイングロバールテニスアカデミー蒲郡
今後は、P1になれるようにがんばります。		
堀 舞美	プロフェッショナル3	スポーツフィールドキャロット
この試験を今後のレッスンで生かしていきたいです。今後もコーチとして、選手として上のレベルを目指し頑張っていきたいです。		
山口 貴由	プロフェッショナル2	スポーツフィールドキャロット
日本プロテニス協会に携わり、自己のコーチング力のアップを目指すと共に会社やテニスクールの発展に貢献していきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。		

資質向上委員会セミナーのご案内＜予定＞

【関東セミナー】

- 日時：平成23年2月15日(火) 12:30～17:00(二部制)
- 場所/講義：JPTA事務局 オンコート:高輪テニスセンター
- 参加費：会員3,000円 一般4,000円

「指導法の原点回帰」～指導方法について改めて考える～

- 講師：神谷 勝則 氏
- 日本テニス協会
S級エリートコーチ
- 日本体育協会
上級教師 上級指導員
- ヨネックス
アドバイザースタッフ



☆3月中旬には関西でセミナーを予定しております。
詳細が決定次第ホームページ等で告知致します。

☆お問い合わせ/お申し込み

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-16 ISAビル3F
TEL:03-5791-1965 FAX:03-5791-1966
E-mail:kyokai@jpta.or.jp
JPTA資質向上セミナーホームページ
(<http://jpta.or.jp/activity/seminar.html>)
要項・申込書はホームページからダウンロードできます。
詳細は社団法人 日本プロテニス協会資質向上セミナー担当:酒井まで

【神奈川地区セミナー】

- 日時：平成23年3月11日(金) 9:45～16:30(二部制)
- 場所：メガロス横浜
- 参加費：会員3,000円 一般4,000円

「心豊かな未来のために(仮題)」

- 第一部講師：成田 儀則 氏
- (株)エム・マインド
チーフトレーナー
- (株)アドバンテッジリスクマネジメント
公認 EQプロファイラー、EQトレーナー



- 第二部講師：ビンス・バークレー氏
- ビンス・バークレーテニスアカデミー
(略:VBTA)校長
- オーストラリアテニス協会所属



平成23年度 2月～3月行事予定

2月

- 資格認定委員会.....
【プロテスト】
2/15、16 モリタテニススクール登美丘(大阪府)
- 資質向上委員会.....
【セミナー】
2/15 関東セミナー
- ジュニア委員会.....
【エリア別育成特別プログラム】
2/5、6 ピスタヴェルデ春日井(愛知県)
【全国大会】
2/25、2/26
JPTA ALL JAPAN JUNIOR TENNIS TOURNAMENT U13・U15
2/26、2/27
ニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバン
- 特別委員会.....
【平成23・24年度役員候補者選挙】
2/16 選挙の告示(立候補者名簿兼投票用紙の配布)

3月

- 資格認定委員会.....
【プロテスト】
3/19、20 Ken'sインドアテニススクール千葉(千葉県)
- 資質向上委員会.....
【セミナー】
3月中開催予定 関西セミナー
3/11 神奈川地区セミナー
- 特別委員会.....
【平成23・24年度役員候補者選挙】
3/20 投票の締切
3/25 開票、集計、確定
3月下旬 推薦候補者の選考～全候補者氏名決定
(JPTAホームページ 会員専用サイトに告知)
※6月下旬予定:総会にて承認



事務局 だより

おめでた

★ ご結婚	平成22年 10月 10日	水橋 太樹 会員 と 堀米 紘実 さん
	平成22年 10月 23日	中川 正義 会員 と 立花 佐保 さん
	平成22年 11月 3日	田中 章雄 会員 と 利田 尚子 さん
★ ご出産	平成22年 6月 6日	松尾 茂生 会員
		長男 惟叶(ゆいと)ちゃん
	平成22年 8月 5日	幾世 昌臣 会員
		長男 峻介(りょうすけ)ちゃん
	平成22年 8月 31日	坂尾 和之 会員
		次女 真有(まゆう)ちゃん
	平成22年 9月 15日	山下 剛 会員
		長女 志歩(しば)ちゃん
	平成22年 10月 28日	井上 健夫 会員
		長女 由比奈(ゆいな)ちゃん
平成22年 11月 19日	伊藤 司 会員	
	次女 里茉(りま)ちゃん	

おくやみ

平成22年 8月 9日	伊丹 一法 会員	実父 正臣さま
平成22年 11月 27日	荒木 謙次郎 会員	実父 善次さま
平成22年 12月 4日	中村 幸恵 会員	義母 郁代さま

※住所変更の掲載は終了しました。ご了承ください。

平成23年度年会費請求書送付方法の変更について

毎年、JPTA NEWS 3月号に年会費の請求書を同封させていただいておりましたが、JPTA NEWSの発行が7月と1月になることから、請求書の同封ができなくなりました。

つきましては、平成23年度分より、毎年3月末頃の発送を日途に、年会費の請求書をご郵送させていただきます。

また、お支払方法(ご利用機関)により変更がない場合がありますので下記をご確認ください。

【変更有り】

今回の変更の対象は「三菱UFJニコス集金代行、振込のご対応の会員様」となります。

平成22年度分まで(旧) JPTANEWS3月号に毎年同封

平成23年度分以降(新) 年会費請求書を単独で毎年郵送

【変更無し】

『キャピタルシステムサービス集金代行のご対応の会員様』

今まで通り、振替案内(はがき)が直接ご自宅に届きます、変更はありません。

ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

.....

平成23年度退会・USPTA退会の手続きについて

退会・USPTAの退会のお手続きにつきましては、JPTAのホームページの会員専用サイトにログイン後、各届け出用紙のダウンロードをおこなってください。

用紙にご記入、ご捺印、必要添付資料(USPTA退会の場合は認定証とカード)を揃えていただきまして下記期日までに郵送をお願い致します。

【提出期日】

平成23年 3月31日(木)必着 (お早目の提出も受付致します)

JPTAホームページ 会員専用サイト

..... 求人広告掲載受付中

ホームページの会員専用サイトに求人広告を掲載することができます。ご希望の方は下記項目をメールにてお送りください。

また、年2回の発行となりますJPTANEWSの人材募集コーナー(有料)も併せてご利用ください。

ご不明な点がございましたら、JPTA事務局までご連絡ください。

求人広告掲載内容詳細

【求人広告掲載事項】

会員専用サイトに掲載される項目です。

- ・会社名(クラブ名)
- ・勤務地
- ・職種
- ・応募資格
- ・待遇
- ・問合せ先(担当者名含む)

【掲載期間】 1か月

掲載の延期または期間内の掲載取り下げの際はお申し出ください。掲載はご申請頂いた日から作業の都合上、3日～5日のお時間を要する場合がありますのでご了承ください。

【掲載料】 無料

(当面は無料で掲載となります)

◀ 原稿送信・問合せ先 ▶ 広報・企画推進委員会 事務局担当 中城
e-mail : nakajyo@jpta.or.jp

メールの件名に「会員専用サイト求人掲載」とご入力ください。
尚、原稿はお送り頂く前に、ご一報を頂けると幸いです。宜しくお願い致します。

JPTA HOT NEWS 協会情報メール配信サービス

..... 登録受付中

出来るだけリアルタイムな情報を会員の皆様へお届けする、メール配信サービス(JPTA HOT NEWS)をご希望の方はJPTAのホームページの会員専用サイトより入り、メール配信サービス登録フォームからメールアドレスをご登録ください。メール配信の利用料は無料ですが、インターネットの利用に伴う通信料は自己負担となりますので、ご了承ください。(配信は不定期となります)

【送信者】

パソコンの場合 [(社)日本プロテニス協会]

携帯の場合 [jpta-haishin@jpta.or.jp]

携帯にjpta-haishin@jpta.or.jpを社団法人日本プロテニス協会という名前で登録して頂ければ、今後、送信者欄に[社団法人日本プロテニス協会]と表示されます。

【件名】

[JPTA HOT NEWS] と表示されます。

ご利用上の注意点につきましては、JPTAホームページの会員専用サイトにてご確認ください。

【問い合わせ】

広報・企画推進委員会 事務局担当：中城

TEL : 03-5791-1965 FAX : 03-5791-1966

E-mail : jpta-haishin@jpta.or.jp

JPTA 公認企業・公認商品

会員は大いに利用し、生徒さん等関係者に薦めてください。

ラケット		プリンスラケット		グローブライド(株)
シューズ		プリンスシューズ		グローブライド(株)
ドリンク		ヴァーム		明治乳業(株)
ウェア		YONEX		ヨネックス(株)
ボール		JPTAオフィシャルテニスボール		ブリヂストンスポーツ(株)
ストリングス				(株)ゴーセン

JPTA 推薦企業

スポーツサーフェス(株) (株)ジャパンビバレッジホールディングス 大塚ターフテック(株)

JPTA 賛助企業

JPTAは下記の企業の賛助を受けています。

あいおい損害保険(株)	(株)ナイキジャパン	(有)リックスコミュニケーションズ
(株)ゴールドウイン	(株)ビー・シー・シー	日本プロテニスエンタープライズ(株)
(株)ダンロップスポーツ	(有)マルス	
東京ウエルネス(株)	(株)つま恋	

編集後記

新年明けましておめでとうございます。委員会一同を代表してご挨拶申し上げます。

隔月発行から年2回の発行になり、少しは余裕がでるかと思いきや、会員へのよりよい情報提供と担当者の熱い思いから、あれもこれもで結構大忙し、そしてこんな風になりました。昨今、このレターの読者が少ないと聞き及んでいますが、私自身はレターが来るのを楽しみにしているひとりです。(今は、先に読んでしまうのがちょっと...)そんな楽しみにしている方のために、また、情報の少ない方のためにも読んでいただければ幸いです。これを機に、どのような情報が欲しいか、ご一報いただければ、私どももますます頑張れます。お会いした時にでもお聞かせください。最後に、ここまで読んでいただけて感謝!

檜垣泰章

インタビューして記事に仕上げるのは、なかなかタイヘンでしたが楽しかったです。今回から内容を一新して、皆様に楽しみにしていただける紙面づくりを目指し、編集担当一同がんばっております。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています!

金丸 由紀

新たな試みとしてはじまるJPTA HOT NEWSの配信、協会のホームページの充実と合わせ会員の皆さまを始め、頑張るテニス人を応援する紙面となるよう頑張っていきたいと思います。今後は、国際的な内容も紹介していきたいと思います。

篠崎 浩信

作成・編集にあたり毎年思うことがあります、「JPTA会員の皆様のお力添えがあってこそ成り立っているのだ」ということです。JPTANEWSに携わりはや〇年、寄稿して下さった会員の皆様、この場をお借りして心より感謝申し上げます。そしてこれからもどうぞ宜しくお願いいたします。発行は年2回と少なくなりますが、少しでも楽しく・ためになるような紙面作りを心掛けていきます。

事務局N